



今日のキーワード『再生可能エネルギー』のコストが大幅に低下

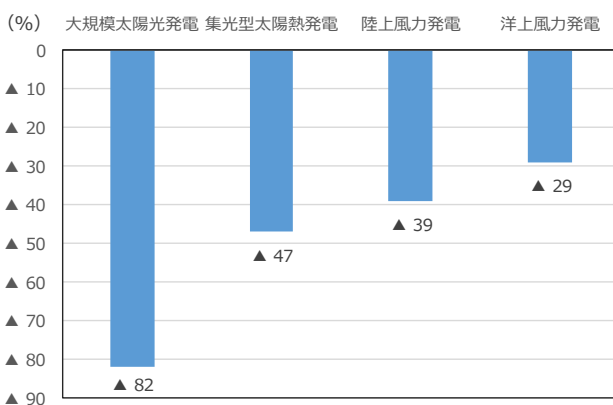
世界が脱炭素に向けて舵を切る中、世界全体の半分近くのCO2を排出する発電・エネルギー分野のグリーン化は急務であり、太陽光や風力といった『再生可能エネルギー』の利用拡大が求められています。世界では過去10年で太陽光や風力発電のコストが大きく下がったため、電力業界は『再生可能エネルギー』の利用拡大を一段と進めることは間違いなく、関連事業の拡大余地は大きいと考えられます。

ポイント1 『再生可能エネルギー』は脱炭素の筆頭

- 全産業の中で、最もCO2を多く排出しているのが電力業界です。世界全体の半分近くのCO2を排出する発電・エネルギー分野のCO2排出量削減は脱炭素にとって必須と言えます。この分野のグリーン化については、太陽光や風力といった『再生可能エネルギー』が筆頭に挙げられます。
- 電力業界は、今後『再生可能エネルギー』の利用拡大を一段と進めることは間違いありません。これは、ルールや法律によってというよりも、過去10年で太陽光や風力発電のコストが大きく下がったため、そちらで発電した方が電力会社には有利になってきたためです。

ポイント2 発電コストは大幅に低下

【2010年以降の主な再生可能エネルギーのコスト低下率】



(出所) IRENAのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

- 国際再生可能エネルギー機関 (IRENA) のレポートによると、2019年に導入された『再生可能エネルギー』の発電容量の半分以上が、最も安価な新規石炭火力発電よりも発電コストが安かったとされています。同報告書は、新規に導入される『再生可能エネルギー』の発電が、既存の石炭火力発電所に対しても価格優位性をいっそう強めていることを強調しています。
- IRENAによれば、太陽光発電のうち、大規模太陽光発電と区分されるものは2010年以降、82%もコストが低下しました。また、陸上風力発電は約4割、洋上風力発電も約3割のコスト低下を実現しています。

今後の展開 『再生可能エネルギー』の事業拡大余地は大きい

- 今年に入り、欧州だけでなく、米国や中国といった世界の大国が、環境対策に本腰を入れ始めました。米中が本気になったのは、地球温暖化などの環境問題に対する政治的なインセンティブの高まりや自国産業の競争力維持が背景にあると考えられ、世界各国で環境への投資拡大が続くでしょう。こうした中、発電コストが大幅に下がった『再生可能エネルギー』の関連事業の拡大余地は大きいと考えられます。

ここも
チェック! 2021年4月21日 『風力発電』の拡大は部材に商機
2021年3月30日 『カーボンニュートラル』への道 (2)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。